

米ISM製造業景況指数は、 さらなる景気回復を示唆

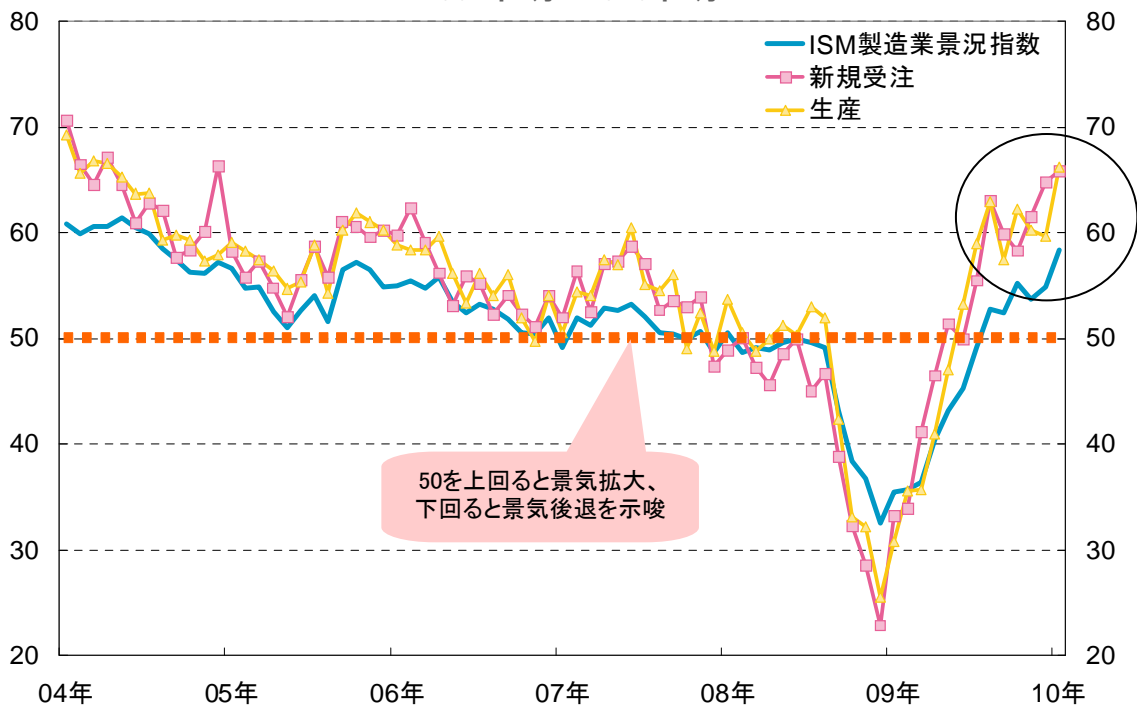
2月1日に発表された全米供給管理協会(ISM)の1月製造業景況指数は、前月の54.9から58.4へと上昇し、2004年8月以来約5年半ぶりの高水準となりました。全米の製造業300社以上の購買担当役員にアンケート調査を実施して作成される当指数は、50を上回ると景気拡大、逆に50を割り込むと景気後退を示唆しているとされますが、世界景気の先行指標として市場の注目度が非常に高い指標であると同時に、日本の輸出との連動性も高く、日本経済の先行きを占う上でも重要な指標とされています。

今回、市場の事前予想を大きく上回ったこと、また、新規受注、生産、雇用、在庫など指数を構成するすべての項目が改善したことなどから、米製造業における回復の動きが加速していることを示唆し、ひいては世界景気回復を市場に印象付けることになったと思われます。中でも、景気に対する先行性が高いと言われる新規受注や生産がより高い水準に改善していることは、今後の景気回復の持続可能性を示唆する材料として注目されます。

各国の金融・財政政策の出口戦略や、米国の新たな金融規制案、ギリシャの財政問題など不透明材料の多い中、足元の市場では景気の先行きを見極めたいとするムードが広がっており、当指標のように实体经济の先行き改善を示唆する指標の発表は、投資家心理を改善させる材料として期待されます。

米ISM製造業景況指数の推移

2004年1月～2010年1月



※全米供給管理協会のデータをもとに日興アセットマネジメントが作成
 ※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。